

NPO法人

相双に新しい精神科医療保健福祉システム をつくる会の取りくみ



相馬広域こころのケアセンターなごみ(平成24年1月~)
訪問看護ステーションなごみ(平成26年4月~)

NPO法人

「相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会」の設立

平成23年 6月

設立準備会の立ち上げ

11月

NPO法人の認可

平成24年1月

「相馬広域こころのケアセンターなごみ」開所

「メンタルクリニックなごみ」開所

平成26年4月

「訪問看護ステーションなごみ」開設



平成23年5月の話合いの様子
浪江から避難した福祉事業の所長宅にて開催

NPO法人相双に新しい精神科医療保健福祉システムをつくる会 平成23年11月設立



理事会

訪問看護ステーションなごみ

相馬広域こころのケアセンターなごみ

1. 看護師 4名
2. 精神保健福祉士 1名
3. 事務3名

精神障がい者アウト
リーチ推進事業
(震災対応型) 委託

南相馬事務所
(南相馬担当)

1. 保健師 1名
2. 看護師 1名
3. 社会福祉士 1名
4. 作業療法士 1名

相馬事務所
(新地・相馬担当)

1. 作業療法士 1名
2. 保健師 1名
3. 作業療法士 1名
4. 事務員兼保育士 1名

ふくしま心のケアセンター
事業(相馬方部センター)
委託

- ・スタッフの中には借り上げ住宅、仮設住宅居住者がいる
- ・病院や施設が休止となり被災者であり支援者という立場
- ・いつまで事業が継続するか見通しが無いまま仕事をする不安

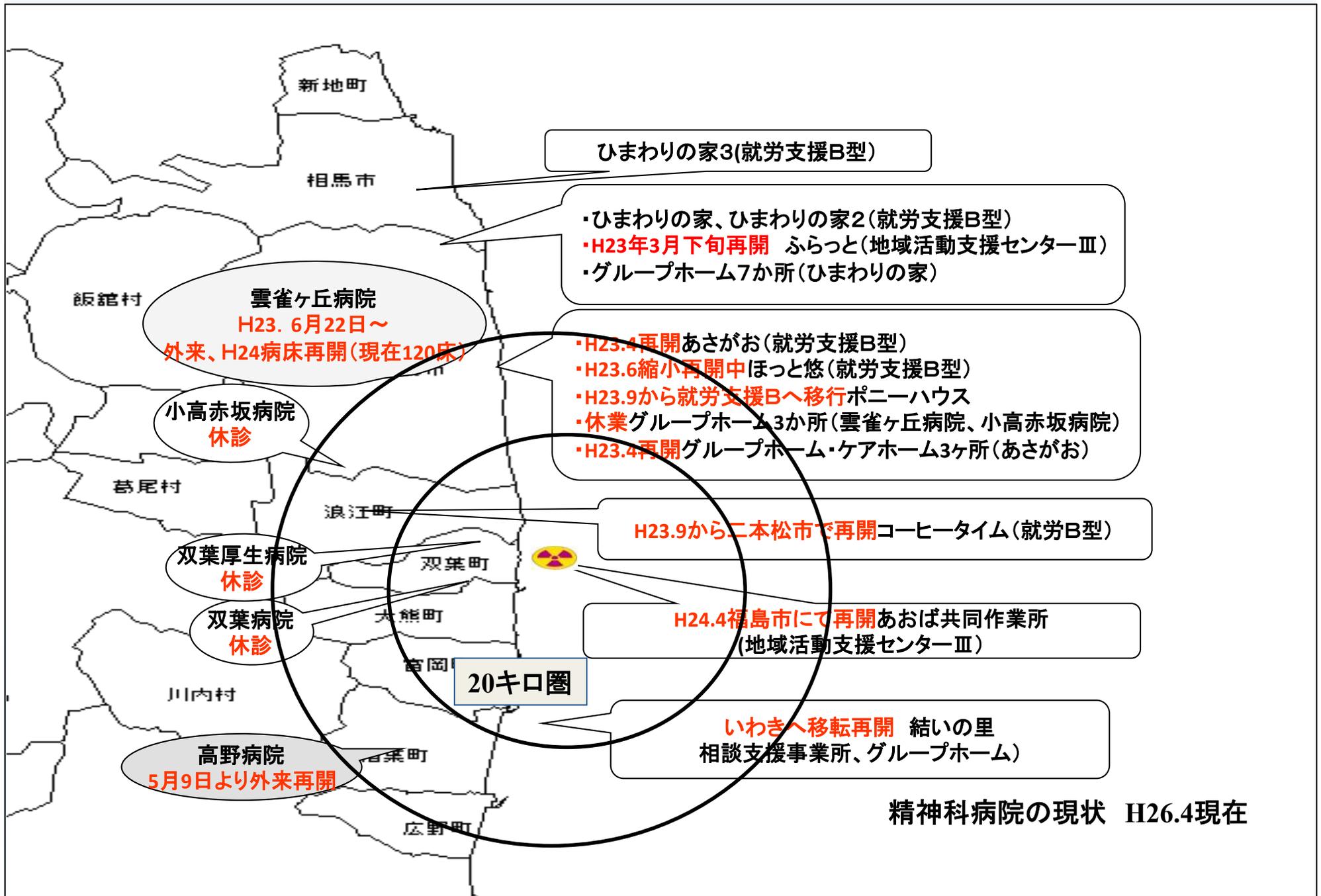


相馬広域こころのケアセンターなごみ
相馬事務所
訪問看護ステーションなごみ

メンタルクリニックなごみ



相馬広域こころのケアセンター
南相馬事務所



相双地区のこころの問題と対応

心の問題	1.もともとの生活弱者の課題が顕在化(復興の格差)	2.仮設住宅から復興へのコミュニティの再構築が必要	3.避難生活の長期化によるストレスの増大	4.精神の医療体制が十分に回復していない
対応	心のケアセンター事業 (放射能が引き起こす不安・心配等)			アウトリーチ事業
施設	相馬広域こころのケアセンターなごみや支援団体			
	精神科の医療機関			

地域別の問題

【相馬市】【新地町】

復興の格差により新たなコミュニティー
を作らなければならない不安
人口44,000人 仮設住宅1500戸

【南相馬市】

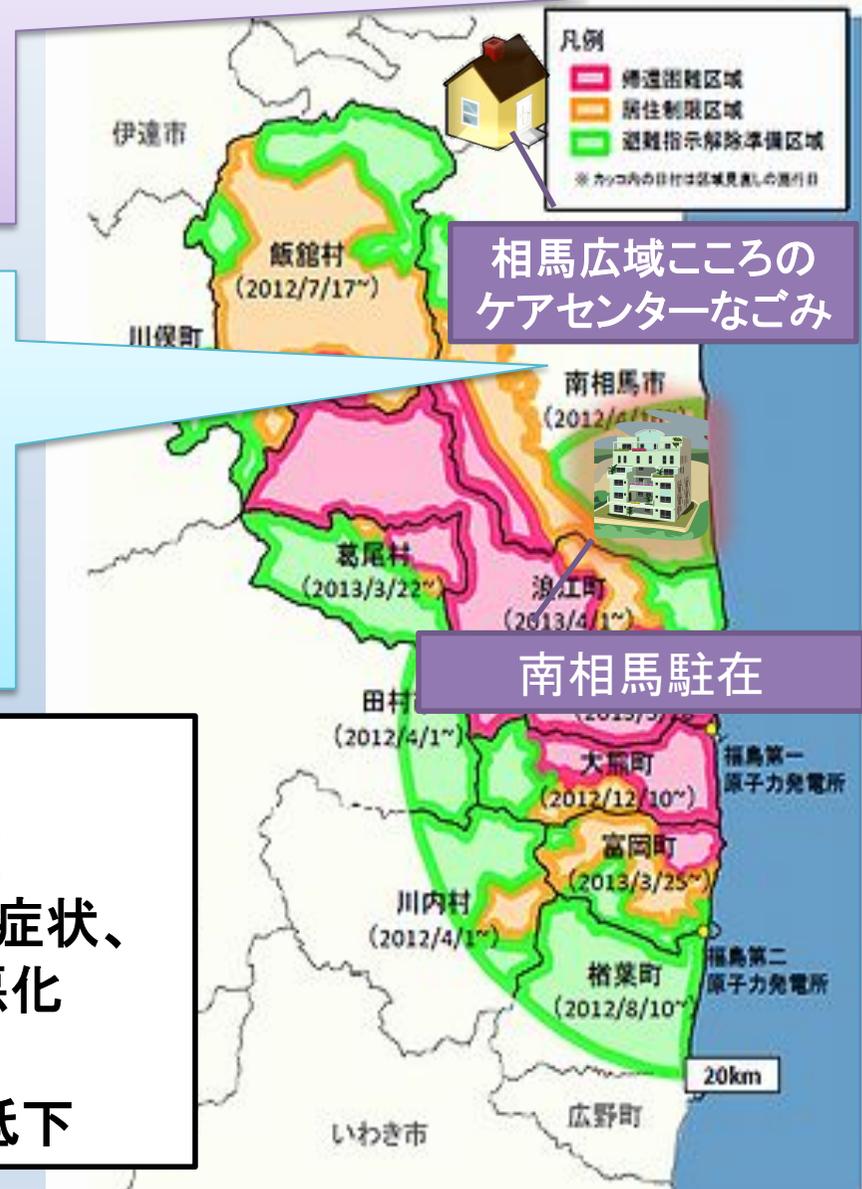
長期化する避難生活のストレス
関連死、震災関連自殺
人口64,000人 仮設住宅2800戸

共通問題

- ・精神障害者の未治療、治療中断者の問題
- ・長期の避難生活による不眠などの身体化症状、生活習慣病の悪化、高齢化、認知症の悪化
- ・アルコール関連問題の表面化
- ・医療、福祉従事者不足によるサービスの低下

避難指示区域の概念図

平成25年8月8日時点



NPO法人の主な事業



精神障害者アウトリーチ推進事業
(震災対応型)



ふくしま心のケアセンター事業
(相馬方部センター)



訪問看護ステーション事業
(精神科に特化)



3事業の役割のイメージ

危機介入の機動性

精神障害者の危機介入
(24時間対応)
(アウトリーチ事業)

地域精神医療
(24時間対応)
訪問看護ステーション

地域精神保健福祉
(こころのケアセンター事業)

- ・被災者のこころケア
- ・訪問活動やサロン活動
- ・福祉事業所との事例検会
- ・アルコール関連問題の介入
- ・高齢者支援
- ・支援者支援
- ・子供ケア

医療

保健・予防

「相馬広域こころのケアセンターなごみ」における ふくしま心のケアセンター事業の展開



集団(サロン)活動

- いつもここで一休みの会(相馬仮設)
- ちょっとここで一息の会(新地町仮設)
- 災害公営住宅サロン(相馬市)
- つながっぺ南相馬サロン(他NPO法人と共催月1)
- 鹿島に集まっ会(双葉郡からの避難者対象月1)
- ハローワーク相談会、事例検討会
- 南相馬市の母子に関する事業の協力



「相馬広域こころのケアセンターなごみ」における ふくしま心のケアセンター事業の展開



震災後、
スタッフが
避難半減
した施設
や家族構
造の変化
による影
響

支援者に対するメンタルヘルス支援

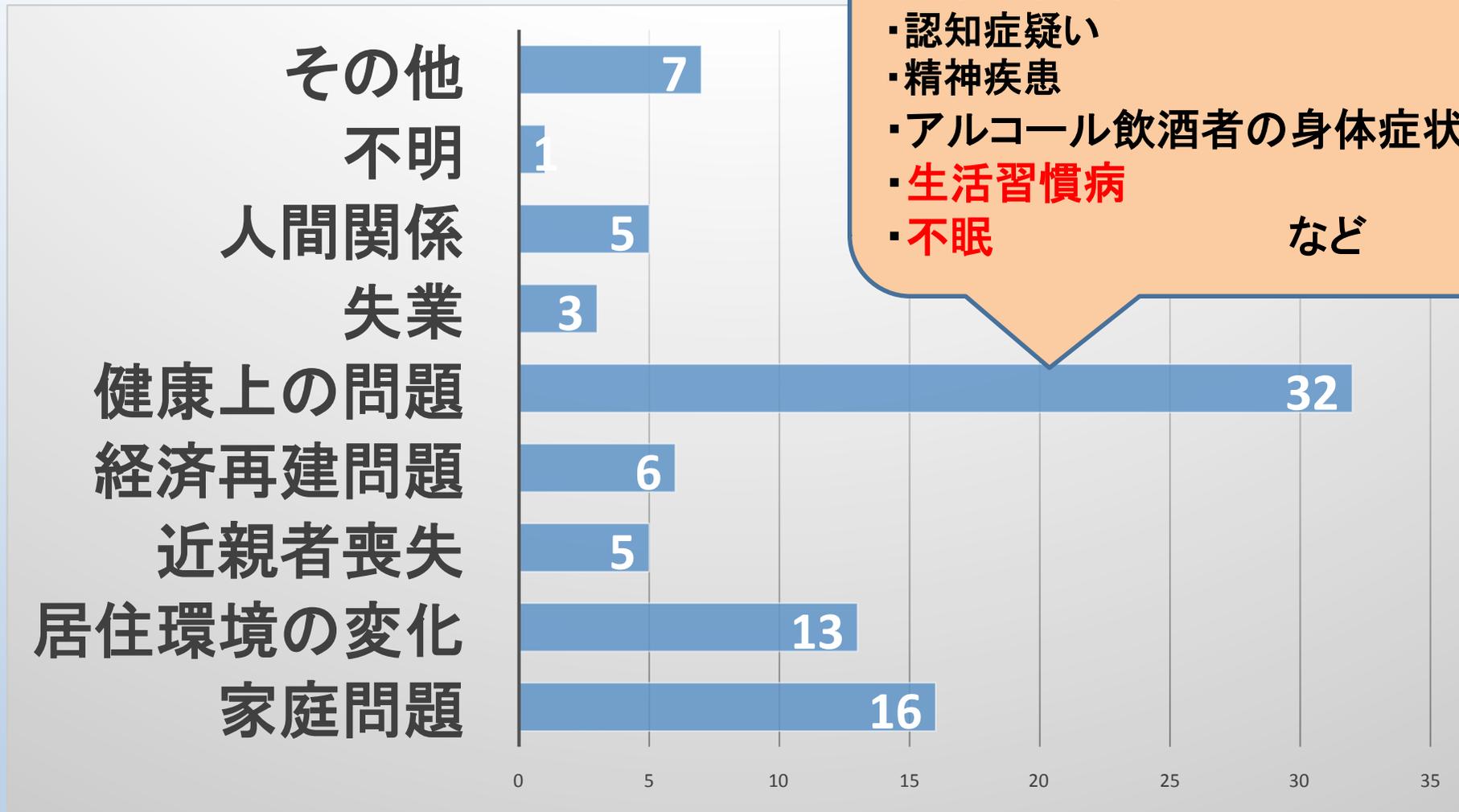
- 消防署職員のかころの相談
PTSDに関するアンケート調査、カウンセリング等
- 福祉事業所のかころの相談、事例検討会

その他の事業

- 仮設住宅でのイベント
- 学生実習、ボランティアの受け入れ(国内外)
- 他団体への協力
- 講演会、研修会の開催
- 9・11家族会との交流会
- 市町村が開催する子供の事業派遣



主な相談背景



この中には・・・

統合失調症:15名、アルコール関連3名、うつ状態、身体化症状など。
南相馬市では、遺族ケア、複合的な問題を抱える引きこもりケースもある。

仮設住宅住民の声



お名前 _____ きのうの日にち 平成 ____年 ____月 ____日

仮設住宅名 _____ 住宅の番号 _____

生年月日 _____ 年 ____月 ____日 お歳 ____歳



からだのぐあい

だいじょうぶ 気になる ぐあいがわるい

こころのぐあい

だいじょうぶ 心配したりいらいらする わるい

仮設住宅住民への聞き取り調査から2

Q. 今一番不安なことや、悩んでいることは何ですか？

- いつになったら還れるのか将来不安
- 部屋が狭い
- 近隣とのトラブル
- 仮設住宅から退去して新しい生活を再建する人が増えていて、取り残される不安や寂しさ、コミュニティのつながりが希薄化する実感がある

Q. 食欲・体重や睡眠の変化はありましたか？

- 家族形態が変化したのに、つい大勢の分量で食事を作り過ぎてしまい、結果として食べ過ぎてしまう
- 大勢で食べていた頃とくらべて、爺ちゃんと2人で食べていても美味くない
- 仕事やカラダを動かすことがなくなったから、腹が減らない
- 仕事がなく生活リズムが乱れてぐっすり眠れない



先行きの見えない不安感が長期化し身体に影響が出ている

今後の活動の方向性



連携

2014年4月～
訪問看護ステーションなごみ

相馬広域こころのケア
センターなごみ

メンタルクリニックなごみ

NPO法人 相双に新しい精神科医
療保健福祉システムをつくる会

医療法人社団

PTSD
放射線不安

高齢者

地域のニーズに応じたサービス提供

自殺

子ども

アルコール

精神障害者

アルコール

アルコールに対する親和性の高い文化的背景を踏まえ、
地域ぐるみでアルコールの問題に取り組めるような基盤づくり

地域住民に対する啓発活動
スクリーニング

高校

生徒を対象とした
アルコール教育

教職員を対象としたアルコール教育

消防署

署員を対象としたアルコール教育

仮設住宅等

仮設住宅・公営住宅等の居住者を対象とした
アルコール教育

生活支援相談員を対象としたアルコール教育

教材作成・教育活動

医療への導入

講師派遣

グループ活動

酒量の
多い
人々の
集い

スタッフへの
教育

雲雀ヶ丘病院
精神科
クリニック

システム作り・支援

日中の
活動の場

当事者の
集いの場
ミーティング



1次予防
健康の維持増進

2次予防
早期発見・早期治療

3次予防
リハビリテーション

健康状態に応じたアプローチ

健康状態の維持を
図っていくことが求
められる人

精神的な
健康問題を
有する人

精神障害と共に
生活している人

予防的介入

- 活動・交流の場の提供
- 教育的アプローチ

早期発見・早期介入

- セルフ・モニタリング
方法の提示
- 相談の場の提供

生活の維持

- 訪問によるサービスの
提供(医療・福祉)

今後の課題

1. 相双地区では、SOSを出すことをためらう潜在的な心のケアを拾い上げる必要のある住民がいる。現在の体制では、十分とは言えず、地域の支援者とのネットワークを強固にしていく必要がある。
2. 相双地区の心のケアは、精神科医療の崩壊、原発問題、など複合的な問題があり、これらの取り組みは、「心のケア」のモデルとして発信していく必要がある。
3. 災害とは地域の課題を表面化させる。予防の必要性は全国共通の課題でもある。

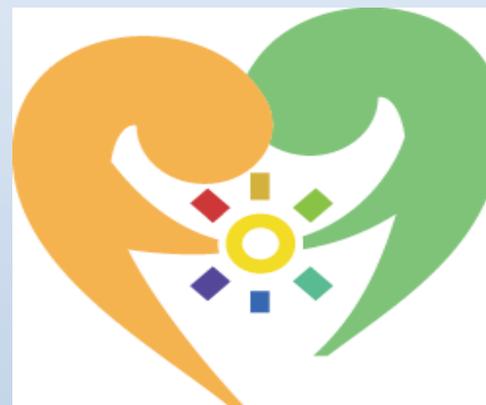
NPO法人相双に新しい 精神科医療保健福祉システムをつくる会 相馬広域こころのケアセンターなごみ

〒976-0016

福島県相馬市沖ノ内1丁目2-8

TEL 0244(26)9753

FAX 0244(26)9739



ホームページアドレス <http://soso-cocoro.jp/>

ケアセンターアドレス <http://nagomi.soso-cocoro.jp/>

メールアドレス office@soso-cocoro.jp

ご清聴ありがとうございました
今までご支援いただきました皆様に感謝
申しあげます。

私たちは、相双地区に「なくてはならない」
をめざします。



郡山西RC

ENGLEWOOD ROTARYCLUB ROTARY DISTRICT7490